令和4年4月15日発行　2022年4月号　小淀ホーム広報誌　通巻90号

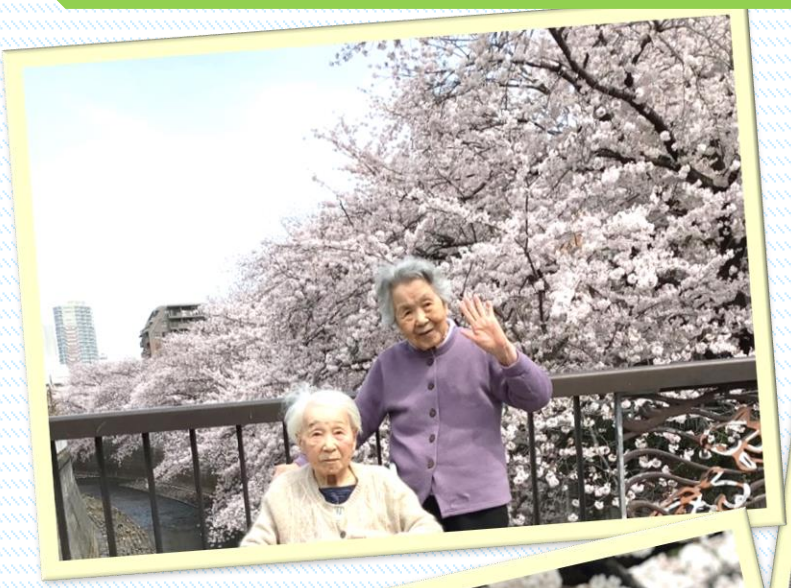
KOYODO HOME

寿楽 小淀ホーム

令和4年4月号

JYURAKU Since 1996

神田川沿いにお花見に行きました🌸



暖かい春の陽気に誘われて小淀ホームのすぐ隣に流れている神田川沿いまで、桜を見に行きました。なかなか外出できない日々が続く中でのお花見🌸皆様「キレイね」「上から下まで桜だったよ」「近くに住む人は幸せよね、毎日お花見が出来るんだもの」等、満開の桜をとても嬉しそうに眺めていました。これからも季節を感じていただける催しをたくさん企画していきます♪

特養にて第三者評価を受けました

令和3年度も特養でのサービスのあり方を評価していただくため、第三者評価を受審しました。今後もより良いサービスを目指してまいります。
全体の評価講評は以下の通りです。

特に良いと思う点

①福祉用具を活用した移乗介助の標準化を実現し負担軽減を目指している

ノーリフトケア（抱え上げない介護）を段階的に進め、研修等でケアの考え方や福祉用具の使用方法を確認し、ケアの定着を図っている。スライディングボード等の福祉用具を使用した移乗介助が標準化しており、職員・利用者共に安全で負担の少ない介助方法を実践。今年度はリフトを導入し活用していくことで、更なる負担軽減を目指している。

②現場の職員が中心となり新規採用職員の育成に取り組んでいる

フロア主任と指導担当職員が中心となり新採用職員ごとに指導計画を立案。新採用職員と計画内容を共有することで、指導する側とされる側が同じ目標をもって進められる。新採用職員個々の課題と目標を明確にし、その後のフォローにも活かしている。

③多職種が連携し、効果的な利用者支援につなげている

週1回のミーティングに多職種が参加し、利用者の状態変化とそれに伴う対応の変化等について確認。情報共有をすることで様々な変更等に対応をしている。チームワークのよい職員間の連携が、効果的な支援につながっている。

更なる改善が望まれる点

①ミーティングの時間確保と活用を進めていきたい

多職種が連携し、利用者の支援をすることで効果的な介護の実践につなげている。職員同士のコミュニケーションを活発にさせ、チームワークをより深めて業務に還元していくために取り組み始めた業務量調査が成果を挙げることを期待する。

②業務の効率化と標準化を進め働きやすい職場環境作りを継続していく

業務量調査を実施し、業務の見える化を図ることでムリ・ムダ・ムラをなくし、効率化を推進。ICT（情報通信技術）化も更に推し進めつつ業務の標準化を進め、働きやすい職場環境作りを継続し、職員の定着化につなげていくことを期待する。

③根拠に基づいた介護の実践を目指していく

令和3年度から始まった厚生労働省の科学的介護情報システムの利用を開始。科学的なデータ分析を活かすことができれば、経験の浅い職員も自信を持って介護・ケアをすることができる。根拠のある介護の実践に向けて検討を重ねていくことを期待する。

詳細は、とうきょう福祉ナビゲーション（http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/）
「福祉サービス第三者評価」でご覧いただけます。

令和4年度事業計画

今年度は以下の事業計画に則り、実施していきます。

1．運営理念

「スマイル小淀！私たち自身が受けたいサービスを、必要とする人に届けます」

2．小淀ホームの将来の姿

小淀ホームは、利用者の尊厳を大切にした質の高いチームケアを提供し、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域の拠点となる多機能施設になります。

3. 小淀ホームの将来の姿

小淀ホームは、利用者の尊厳を大切にした質の高いチームケアを提供し、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域の拠点となる多機能施設になります。

ア）質の高いチームケアの提供
質の高いケアを維持するためにマニュアルに沿った育成を持続的に実施する必要があります。良好なケアを保持し、質の高いチームケアを提供するために業務の標準化を進めます。ミーティングの内容を充実させることでコミュニケーションが活発になり、職員が連携した効果的なチームケアを推進します。

イ）認知症ケアの推進
小淀ホームは、地域の高齢者ケア・認知症ケアの拠点となる多機能施設を目指しています。今年度は、ユマニチュードの基本の4つの技法（見る・話す・触れる・立つ）を理解し、実践できるための取り組みを進めます。
※ユマニチュードとは、フランスで生まれた認知症ケア技法のひとつ。フランス語で「人間らしさ」「人間らしさを取り戻す」の意味。「見る」「話す」「触れる」「立つ」の動作を基本に、中心は「ケアする人」でも「ケアされる人」でもなく、お互いの絆を中心に置いて行うという考え方。

ウ）ICT機器等を活用した職場環境改善
ICT機器の活用やノーリフトケア（抱え上げない介護）の推進により、業務の負担軽減や安心して働ける環境を整備し、職員の定着を図ります。

エ）地域活動の再開
小淀ホームは、地域活動を通じて地域住民との交流を深めてきました。新型コロナウイルス感染拡大により地域活動はすべて休止していましたが、地域から「地域の高齢者の交流の場として再開してほしい」との要望も聞かれています。 感染予防対策を徹底して、令和4年度からスマイルcafé（認知症カフェ）を再開します。

職員紹介

4月より小淀ホームに異動となった、新たな職員を紹介します。

小淀ホーム
副施設長　菅野

春も深まり、木々の緑が濃さを増してきたように感じられる今日この頃です。
皆様こんにちは。4月より経営担当部より小淀ホーム副施設長として異動しました菅野雅一(すがの まさかず)と申します。小淀ホームには、介護サービス係長として勤務していました平成29年度以降、5年ぶりの配属となります。しばらくはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様のお力添えをいただき、初心に帰って頑張る所存です。
これからも職員一丸となって、安心・安全なサービス提供と笑顔あふれる小淀ホームを目指します！

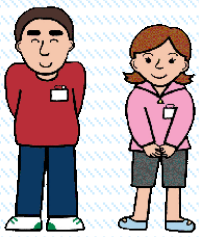
PS：個人的には気持ちは痩せず、身体を絞る1年にしようと思っています(笑)！

特養
健康管理係長　鈴木

皆様こんにちは。
この度、約7年半ぶりに健康管理係長として小淀ホームに配属となりました鈴木麗子と申します。
これまでは、しらさぎ24訪問介護看護ステーションに2年半、しらさぎホーム健康管理係長として5年勤務してまいりました。
今後は、小淀ホームのご利用者が健康で穏やかな生活を送れるようこれまでの経験を職務に活かしていく所存です。
どうぞよろしくお願いいたします。

デイサービス
生活相談員　五十嵐

4月よりしらさぎホームデイサービスから異動となりました。
2年ぶりの小淀ホームです。2年の間に変化したことも多々あると思います。皆様のお役にたてるよう精一杯取り組ませていただきますので、宜しくお願いいたします。



皆様、どうぞよろしくお願いいたします。